

平成29年度版 改善計画

学校名： 笛吹高等学校

No	項目	現状と課題	H30年度に目指すべき状態	①H29年度に実施する内容 ②H30年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	・職員会議において議題以上に連絡・報告事項が多いため、場合によっては、勤務時間外になってしまうことがある。	・会議の効率化を図るため、校内ネットワークが活用されている。	①について ・職員会議における報告・連絡事項の内容を精選する。 ・会議資料は、前日までに配付し、必ず一読してから会議に参加する。 ・議題等の提案は、簡潔に要点のみとする。 ・終了時間を設定する。 ②について ・校内ネットワークの活用を検討する。	
2	学校行事の負担軽減	・学校行事は、教育目標の達成のためにも生徒の成長のためにも重要であるが、一方で教員にとって負担が大きい。	・宿泊を伴う行事の見直しが行われており、教員の負担が軽減されている。	①について ・各行事の必要性や教育的効果を検討する。 ・行事ごとの業務をマニュアルにわかりやすく整備することで、次年度へ正確に引き継ぐ。 ②について ・宿泊を伴う行事の見直し(スキー教室の日帰り実施についての検討)	
3	校内組織の見直し	・委員会等の数が多く、主任クラスの教員の会議の回数が増えている。	・各委員会の統合及び校内規程の改定が行われており、校内組織が円滑に進められている。	①について ・各委員会組織の見直しを行うとともに、各委員会の統合を図る。(今年度は試行的に実施) ・会議の時間短縮を図るなど効率化に取り組む。 ②について ・各種委員会組織の規程の改定を検討する。	
4	業務の効率化	・本校の教員は、教科指導や部活動指導のほか、各種事務処理、放課後の生徒からの質問への対応、保護者への対応など突発事項への対応もあり、日々残業となってしまうことが多い。	・月1回の「部活なし、会議なし、残業なし」の日が設定されており、教員の負担が軽減されている。	①について ・残業が必要な教員一人一人に対して、個別に申し出をしてもらい、何となく残業をするという雰囲気を断ち切る。 ・定時退校日を設定し、徹底を図る。(年間12回) ・各教員が出勤・退勤時間を記録し、時間を意識する中で業務への集中と効率化を促す。 ・業務引き継ぎ資料をわかりやすく作成することで、後任の負担を軽減させる。 ②について ・月1回 部活なし、会議なし、残業なしの日の設定を検討する。	
5	部活動の負担軽減	・部活動の加入率が高く、各部の各種大会での目標設定や生徒たちの要求水準も高いため、練習の量や質もかなりのものが求められる。 ・上位大会に進出する部活動も多いため、大会の参加日数なども多くなる傾向にある。 ・指導や引率に当たる教員の時間外勤務などの負担が大きくなっている。	・月1回の「部活なし、会議なし、残業なし」の日が設定されており、教員の負担が軽減されている。	①について ・部顧問を複数配置し、協力体制を構築することで一人の負担を軽減する。 ・部活動生徒の完全下校時間を徹底する。 ・週1回以上の部活動休業日を設定する。 ・外部コーチを効果的に活用する。 ・土曜・日曜日については、原則として教員の休養日をいずれか1日以上設定する。 ・部活動におけるマイクロバス業務の代行を推進し、教員の負担軽減を図る。 ②について ・ノー部活デーの設定(月1回)を検討する。	
6	地域人材の活用	・笛吹市との包括連携協定に伴い、地域の人材の活用等を検討中である。	・地域との連携が図られ、諸活動へ地域人材が活用されている。	①について ・行事・授業・部活動等への地域人材を活用する。 ・登校指導等を地域の方や保護者に依頼する。 ・総合的な学習の時間等の指導について、博物館等の教育的機関の職員に協力を依頼する。 ②について ・行事・授業・部活動等への地域人材の活用を検討する。	

※達成状況: 次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村教育委員会へ提出する

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった